



## 釧路大会に参加して

札幌市立美香保小学校教諭 佐野 和人

世界の湿地と野鳥の保護に関わる国際会議「ラムサール条約締結国際会議」が開催された釧路で10月8日(金)～9日(土)に開催された、第14回北海道国際理解教育研究大会釧路大会に参加することができた。

釧路について感じたことを、失礼も省みず言わせていただければ、釧路が大変垢抜けた街に変わったということである。

なにが釧路の街をこんなに变化させる原動力になったのかを推察すれば、それは「ラムサール条約締結国際会議」が開かれたことによるのであろう。

勿論素晴らしい建築物が多く見られることも関係しているであろうが、それ以上に国際会議の経験を通して、人々の関わり方の変化が大きな理由であろう。

詳しいことは言及しないが、大会2日目に特別報告されたラムサール会議準備室長西塔氏の「ラムサール条約締結会議からなにを学んだか」を聞いて、釧路の国際化していく道筋が見えたし、国際化の本当の意味を見出だした思いがする。それが釧路の街を大きく变化させた理由だと納得するのである。

さて私が参加した第14回北海道国際理解教育研究大会釧路大会についてであるが、こちらも大きな成果を上げたと言うことができる。

「ラムサール条約締結会議」の成果が生かされ、大会を支える方々の意気込みが素晴らしかった。各市町村の学校、委員会、釧路教育局、釧路市等々数え上げること出来ないほど多くの団体、諸機関が組織的に動いて大会を盛り上げた。

特に公開授業についていえば、幼稚園から小・中・高まで、一貫した教育の中で国際理解教育について考えると言うこと、さらに取り上げられた教科が大変バラエティーにとみ、課題追求の仕方も多様であった、と言うことも我々の発想の転換を促するものであった。例えば幼稚園では「リズム遊び」を通してコミュニケーション能力を育成することや、小学校での「小筆で書く」と言うことを通して、日本の文化の認識や異文化理解及び寛容性を養うなど、釧路が標榜した「いつでも・どこでも・だれでも・むりなく」を皆の前で実践してくれたのであった。今回の新学習要領のねらいは4つ上げられているが、その中の一つに「国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成」とある。この4つのねらいについては日常的実践の中で欠かすことなく、真剣に取り組まなければならないが、国際理解面での日常的な実践となると、どのようにしたらよいのか先生方も手探りの状態と言うのが今の実態ではないだろうか。それに答えたのが釧路の「各教科における多様な取組・多様な追及」「いつでも・どこでも・だれでも・むりなく」であったと言えるであろう。私たちは釧路の「各教科における多様な取組・多様な追及」「いつでも・どこでも・だれでも・むりなく」と言うことの意味するところを、今一度深く検討し学習してみる必要があるのではないだろうか。

### 釧路地方国際理解教育研究会(会長 藤原文夫)管内教育実践表彰受ける!!

昨年全道国際理解教育研究大会での授業研究会や外国人との交流会などの実践、日常の国際理解教育の実践が認められ今回表彰を受けられました。おめでとうございます。



## 札幌地区の活動より

### SESEフォーラム Japan Project'93

札幌地区では、平成5年10月3日～17日の2週間にわたり札幌市内22名の教員が米国アーカンソー州リトルロック市に派遣されました。

この『フォーラム Japan Project'93』はSESEの会（札幌国際理解教育研究会・札幌青年会議所・札幌ユネスコ・白石リラの会）の共催で実施されました。このフォーラムは国際都市札幌にふさわしい教育の向上を目的としています。札幌市内の教員22名の皆さんに、現地のアシスタント・ティーチャーとして実際に学習指導を体験してもらうというプロジェクトです。

今回は、その派遣事業に参加された先生方の中から、お二人の方に現地でのエピソードや子どもたちの様子など、研修の感想をよせていただきました。

.....『Japan Project'93に参加して』.....

札幌市立新陵中学校教諭 安原 正

この研修旅行に参加させていただいたことをSESEの会、その他の関係諸団体の皆さんに心から感謝いたします。

AmericaのLittle Rock市の教育視察だけでなく、学校で授業をさせていただけると言う、この素晴らしい計画に私は驚きをもって参加させていただきました。

私は、Little Rock Central High SchoolとNorth Little Rock High Schoolで多くの先生方や生徒に接し、大変勉強になりました。

Chairmanとして、団員の皆様にご迷惑をお掛けしたことや、いたらなかった事を心からおわびしなければならないと思っています。しかし全員無事帰ってこられたのは、青年会議所のリーダーの方々のお陰だと思います。ありがとうございます。.....

Chairmanとして沢山のスピーチがあったのですが最後の200人を越す大パーティーでの挨拶では Little Rock supports Great American Education System.

You are prime teacher in United States of America.

と大きな声でひとことひとこと丁寧にいいましたところ、大きな拍手がありました。

後で、アメリカの女の先生が、私のスピーチをほめてくれました。

とてもうれしくおもいました。

10月3日、アメリカ合衆国リトルロックに向け出発。しかし、成田を出発するのに時間！ダラスでも乗り継ぎができずまた時間！待たなければならなくなり、リトルロックに着いた時は、予定の時刻を5時間も過ぎていました。

到着した日の朝から、2週間の研修がスタートしました。スクールバスで通うのが普通でした。これは白人と黒人の比率を同じにするための対策なのだそうです。.....

.....また子どもたちは折り紙と刀にとっても興味を持ちました。四角い紙が鶴になるのがとても不思議だったようで、完成すると「ファー」と歓声が上がりました。刀も忍者ブームのせいかな、多くの子どもが知っていました。これは中学生もとても喜んで聞いてくれました。

日本のイメージはとても曖昧でした。日本も中国も東洋の国であって違う文化や習慣を持った国だという感覚はなかったようです。しかしもっと日本を知りたい、もっと日本語を学びたいという意欲は多くの子どもたちが持っていました。

2週間の研修で、多くの子どもたちと接しました。

国は違い、言葉は違っても、子どもは同じなんだとつくづく感じました。

どの子どもたちもとても親しく接してくれました。

研修報告会

SESEフォーラム 『国際都市札幌にふさわしい教育とは』  
～アメリカ・リトルロック市の学習指導体験から得たもの～

日時 平成6年 1月29日(土) 会場 札幌市立東白石中学校

主催 SESEの会

札幌国際理解教育研究会 (社)札幌青年会議所

札幌ユネスコ 白石リラの会

SESEフォーラムJapan project'93でリトルロック市に派遣された先生方の中から6名の方が基調報告をしてくださいました。

小学校分科会	宮本 由美	札幌市立二条小学校
	滝沢 恵子	札幌市立東札幌小学校
中学校分科会	小倉 信栄	札幌市立清田中学校
	川村 章	札幌市立東白石中学校
高等学校分科会	佐藤 正典	北海道立稲北高等学校
	松信 元一	北海道立手稲高等学校

海外勤務をおえて…

生田原町立生田原中学校 柳原愛子

高雄日本人学校は、台湾の高雄市にあります。高雄で過ごした3年間、たくさんのお話を教えられました。そこに「住む」ということは、旅行で感じる素晴らしさとはまた違ったものがありました。それはきっと、台湾での人々との交流がそのように感じさせるのだと思います。

現在、国交のない国ですが、人的往来があり経済面での関係も深く、なんとも奇妙な状態の国である台湾。滞在中、一度も感じなかったその奇妙さを帰国して感じることになったのです。私の住民票の前住所欄には「中国」と記入されています。私が3年間生活していたのは台湾。正式国名は「中華民国」というのですが、そのどちらでもなく、とても悲しく寂しい思いをしています。「国家統一」に関しては、一歩間違えば戦争にもなりかねない問題だけに、慎重に平和的にかつ全人民の総意に基づいて一番よい道を選択してほしいと願っています。

南国高雄での生活は、気候に慣れるまでの4ヶ月が一番大変でした。午後になるときまって頭痛がし、パファリンを飲む毎日。あとで分かったことですが、水分補給が十分でなかったために脱水症状を起こしていたのでした。

不思議と食べ物に対する抵抗はなく、この年の派遣教員は、一度はなると言われていた腹痛もどこ吹く風でしっかり食文化を楽しみ、健康で夏休みを迎えたときはほっとしました。どうやら私の国際理解は、「胃文化理解」から始まったようでした。時間とともに学校のこと以外にも目がいくようになり、人との交流や語学学習などの始まりでした。

心に残る人との交流は、時間がたつほど鮮明になるような気がします。講師の張淑貞さんは、日本に留学中、とても親切にしてもらったとのこと。張さんの考えたお礼というのが日本人学校で働くことでした。日本語を忘れたくないのと、私達の台湾生活が、楽しいものになるようにお手伝いがしたいと言うのです。なんという温かく広い心でしょう。

気負うことなくありのままの姿で対応することが、国際理解の第一歩のように思います。国際理解は、人間理解です。日本人とだけではなく、世界中の人と、心で付き合える子ども達を育てたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 海外からの便り

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

海外教育施設に派遣中の  
先生方より便りが届いています。

平成5年度派遣 パリ日本人学校 類家 斉 先生 より  
(札幌市立緑丘小学校在籍) 元気なお便りが参っております。

札幌は雪のちらつく美しい季節と存じますが、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。パリは雪こそありませんが、すっかり冬の様相を見せております。……

様々な都道府県の先生方が集まった学校であり、しかも中学部が一緒ということで、今までとは一味違う雰囲気の中で、緊張をもって仕事をさせていただいております。

学校は、中3まで2学級ずつ18学級、およそ400人の児童・生徒が学んでいます。校舎は新築4年目、体育館は大小2つ、全面芝生のフィールドに200メートルトラックのグラウンドもあります。

授業では小学1年生からフランス語のあるのが特徴になっています。また小学1年生から1日6時間、週30時間という日本人学校ならではのリズムも、自分なりにつかむことが出来たなと思うこの頃です。……

生活の方も、日本並みとは参りませんが落ち着きを得、全員元気に過ごしております。ただ、フランス語の壁は厚く、フランス人に英語でフランス語を教わっておりますが、今だ簡単な日常会話程度しか出来ない状態です。……

3年という限られた期間の中、精一杯の努力をしてみたいと思いますので、今後も変わらぬご指導お願い申し上げます。……

ご自宅 50 Bd. Vauban  
78180 Montigny-le-Bretonneux FRANCE ☎30.48.03.91

平成5年度派遣 ブラジル ベレーン日本人学校 藤田 俊一 先生より  
(興部町立興部小学校在籍) お元気で活躍中のお手紙が参っております。

8月も下旬に入り2学期も始まっていることでしょう。ブラジルの様子をお知らせしようと思っているうちに月日が経過してしまいました。……ベレーンの近郊には日本人の移住者が開いたトメアスーというところがあります。ここでビメンタ・カカオの栽培を見ることができました。カカオというのは、非常に変わった植物です。日本の果実のように花が咲き、そこから実がなるというよりも木の茎に沢山ぶら下がっているようです。幹から小枝が出ているように全ての小枝にカカオの実が直接ぶらさがっていると表現した方がよいかもかもしれません。……日系の農業従事者の7割が日本に出稼ぎに出ています。

ブラジルの最低賃金は6千円程度にしかありません。このお金はスーパーで2度ちょっとした買い物を私たちがするとすぐ飛んでいってしまうお金です。……そのため犯罪も毎日のように起きています。程度の低いものでは『タバコを一本くれといっても、くれなかったから殺した』『旅行社や会社にピストルを持った強盗が入った』からバラバラ死体が出たと新聞記事には事欠きません。これが日常なので、段々と自分も「行ってはいけない場所と時間帯が」つかめてきました。……暑い陽射しを浴びて日焼けが凄く、赴任当初とは比較にならない程度になりましたが、大病もなく暮らしております。多忙な日々をお過ごしのこととは思いますが、健康に留意されご活躍くださることを祈念しております。

平成5年度派遣 釜山日本人学校 坪内 夕季子 先生 より  
(旭川市立啓明小学校在籍) 元気なお便りが参っております。

先生は韓国への興味・理解を持ってもらうことを願い韓国の生活や日本人学校の様子などを楽しくまとめられたミニ新聞『プサン・チュル・パル』を発行なさっております。

平成4年度派遣 ドイツ フランクフルト日本人学校 橋本 フミエ教頭先生  
より(札幌市立北辰中学校在籍) 元気なお便りが参っております。

12月になりドイツのまちまちはクリスマス一色彩られて降ります。中心広場にもクリスマス・マルクトが立ち並び、賑わっております。……

(ドイツの治安の状態があまり良くないとのお話ですので十分お気をつけください)

平成5年度派遣 ロンドン日本人学校 道原 義博 先生 より  
(苫小牧市立啓北中学校在籍) 元気なお便りが参っております。

53名の教員スタッフのロンドン日本人学校や陸上競技場を貸し切ったの運動会、中学部2年担任としてパリへの修学旅行などお忙しい日々を送られているようです。

平成5年度派遣 ブラジル マナオス日本人学校 河野 匡宏先生 より  
(広島町立広葉中学校在籍) 元気なお便りとたくさんの資料が届いています。

平成5年度派遣 シカゴ補習校 校長 菊池 征児先生 より  
(室蘭市立北辰中学校在籍) 元気でご活躍とのお便りが参っております。



## 第20回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会 東京記念大会 参加報告

釧路市立寿小学校教諭 戸松 栄

8月の東京は肌寒い日が続き、北海道のような気候でしたが、開会式の会場である国立教育会館には全国から会員が集まり、熱気をおびていました。記念講演では、川村恒明氏（国立科学博物館長・前文化庁長官）は、国際化が進む日本の教育界に生じている問題を分析し、今後の研究に大きな示唆を与えてくれました。

2日目は分科会Ⅰが開催され、第4分科会の『学校現場における国際理解教育』で次のような提言を行いました。

提言主題 『地域に根ざした国際理解教育』 —ラムサール条約と釧路市—

ラムサール条約締約国会議が釧路市において6月9日から8日間の日程で開催された。世界95カ国約1千人が参加し、地球上の重要な湿地の保全などについて話し合われた。

ラムサール条約締約国会議のために、市街地の整備、ホテル群の建設、市民の世界からのお客様の受け入れ準備など、釧路市は、最果ての町から国際都市へと変化を始めた。

しかし、国際化とは都市の景観が変わる事なのだろうか。そして、会議終了後、湿原が保護されるかという課題は、住民一人一人に問われている。

この問いを授業を通して考え、国際理解教育の一つのあり方として試みた。

### 1 実践の内容

ラムサール条約締約国会議のために官民あげての準備や会議の意義を学習することは、国際理解教育の視点から意義が大きい。そこで、6年生の段階では、次の4点を目標に指導計画を立案した。

①ラムサール条約の意義、②釧路市の会議に対する諸準備、③世界各国から集まる人たちの異文化理解、④自然保護に対する関心の喚起

また、国際理解教育を一般化するために必要なことは、現行カリキュラムを生かしながら、無理な指導計画を立案しない事、また、子どもの実態に合わせて身近な事象や切実な問題を取り上げることと考えて計画を作成した。

### 2 成果と課題

校舎の窓から建設中のホテル群を見ながらの学習だったので、意欲の高まりがあった。また、異文化理解が会議成功の鍵であることが理解できた。

環境保護についても、何気なく釣り糸を捨てるなどの行為が、湿原の生態破壊となる事に気づき、自らの行動を振り返るきっかけになった。

# 第20回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会 東京記念大会 研究発表

旭川市立近文小学校教諭 佐藤 務  
(前サン・ホセ日本人学校勤務)

・マンネリ化を脱却した現地理解教育の実践・

## 1、はじめに

私は、平成2年4月～平成5年3月まで中米コスタ・リカ共和国サン・ホセ日本人学校で勤務し、義務教育年齢の子弟30余名の指導にあたってきた。コスタ・リカでの三年間の生活は、気候・風上・治安等に比較的恵まれ、子弟教育に全力を注ぐことができた。

### (1) 地域性について

首都サン・ホセ市を中心に日本人関係者が300余名在住し、日本人学校子弟教育に対して、常に好意的且つ協力的である。しかし、年々減少する児童生徒数。それに伴う授業料の大幅値上げは、深刻な問題である。また、地震等の被害による校舎の破損状況は子弟の安全教育の面から最も重大で緊急に解決しなければならない課題である。

### (2) 児童生徒について

こうした状況の中で、子供達の生活は、登下校スクールバスを使用し、学校内外において、日本人同志の付き合い、交流が主であり、現地の人々との付き合いは極めて少ない。子供達の意識の中に発展途上国のコスタ・リカを、「町や人は汚い、暗い、怠け者」「文化が遅れている」「貧乏人が多い」等といったコスタ・リカを軽蔑し、偏見で見る傾向が強い。

そこで、本校ではこのような子供達を自らすすんで現地社会へとびこみ、積極的に現地の人々と多くの体験をすることによって、一人ひとりが確かな国際感覚を身につけよりよく相手を理解し認め、相手の立場に立って考え行動できる人になってほしいという願いに立ち交流を中心に実践をすすめてきた。

### (3) 今までの現地理解教育の反省と問題点

今までも現地校交流、コスタ・リカ理解教育を実践してきたが子供達一人ひとりのものにはなっていなかった様にみえる。また、取り組みがマンネリ化し、パターン化され子供達の意識の中に仕込まれたものをただ受け身的に取り組み実感としてのとらえが少なかった。

### (4) 解決策と成果

今までの取り組みを反省し、子供達の意見を積極的に取り入れて自ら課題を届け一人ひとりの力で現地の人々にアタックさせてみた。特に、児童生徒会三役が中心になり低学年から中学部に至るまで多様な経験と発達段階や一人ひとりの個性に応じた取り組みを大切にした。また、教師の立場は、できるだけ表に出ることなく子供達を前面に出し支援に徹し、多少失敗しても、それをどう子供達なりに解決していくかを見守った。交流を重ねる旅にスペイン語で随分苦労しながらも現地の子供達と確かに交流している姿が実感としてみえてきた。サン・アンソニー校、パン・アメリカン校、シオン校交流、老人ホーム訪問等今までにないフレッシュで一人ひとりがとても輝いてみえた。三年目の最大のイベント「開校記念祭り」では、交流校を招き、自分達で計画し運営するといった教師の手助けの少ない取り組みができた。保護者の参加と協力を得て大成功に終わった。

## 2、おわりに

現地校との交流の目的が、「相手の立場を理解し、自分から主体的に行動できる子」の育成であった。この目的を達成するためには、子供達、教師自身の意識の変革と現地を多様な角度からみることが出来る広い視野を持つことと、コミュニケーションを図る上でスペイン語を習得することが大切である。派遣教師一丸となり取り組んできたがまだまだ十分だったとはいえない。今後引き続き改善を図りながら素晴らしい実践の成果を期待している。

平成6年度 在外教育施設派遣教員一覧

派遣年度	管内	所 属	職名	氏 名	派遣先 (国名)日本人学校名	職名
平成6年度 16人	石狩	江別市立大麻西小 札幌市立二条小 当別町立弁華別小	教諭	泉山 浩幸	(ドイツ)デュセルドルフ	教諭
			教諭	嶋田 肇	(韓国)釜 慶	教諭
			教諭	冷川 元彦	(ドイツ)フランクフルト	教諭
	後志	岩内町立岩内第二中 蘭越町立蘭越中	教諭	宮澤 知	(イタリア) ミラノ	教諭
			教諭	庵 健司	(マレーシア)クアラルンプール	教諭
	空知	長沼町立長沼中央小 深川市立多度志小	教諭	佐野 聡恵	(ドイツ)デュセルドルフ	教諭
			教諭	織田 靖雄	(マレーシア)ペナン	教諭
	上川	当麻町立当麻中 旭川市立東陽中	教諭	林 晃淳	(イタリア)ミラノ	教諭
			教諭	久松 武夫	(チリ) サンチャゴ	教諭
留萌	初山別村立豊岬小	教諭	戸水 正三	(グアテマラ)グアテマラ	教諭	
網走	小清水町立小清水小	教諭	吉野 経夫	(バレーン)バレーン	教諭	
胆振	苫小牧市立沼ノ端小 伊達市立伊達中	教諭	岩井 真二	(南アフリカ共和国)ヨハネスブルグ	教諭	
		教諭	冨田 律子	(オーストラリア)メルボルン	教諭	
十勝	帯広市立開西小 音更町立下音更中	教諭	石原 基博	(大韓民国)ソウル	教諭	
		教諭	川上 裕明	(韓国)釜 慶	教諭	
根室	標津町立標津小	教諭	外山 浩司	(インドネシア)ジャカルタ	教諭	

派遣期間 平成6年4月1日～平成9年3月31日

## 帰国者報告会・派遣教員激励会のお知らせ

平成6年度在外教育施設派遣教員が前記のように内定したとの連絡がありました。来年度は16名の派遣です。つきましては恒例の道教委主催の「在外教育施設帰国者報告会」と本会主催の「在外教育施設派遣教員激励会」を下記の通り開催いたします。

時節がらお忙しいとは存じますが、派遣者への激励や助言に多くの会員の方に出席していただきたくご案内申し上げます。お忙しい中ですが激励会だけでも参加いただければと存じます。

平成5年度

### 在外教育施設帰国者報告会

日時 平成6年 3月7日(月) 午後1時00分～3時00分  
会場 ホテル アカシア 2F にれ  
住所 札幌市中央区南12条西1丁目  
電話 011-521-5211

平成6年度

### 在外教育施設派遣教員激励会

日時 平成6年 3月7日(月) 午後6時30分～8時30分  
会場 ホテル アカシア 3F はまなすの間  
住所 札幌市中央区南12条西1丁目  
電話 011-521-5211  
会費 6000円(激励会後に別室にて懇談会を行います)  
旅費 (自己負担) 宿泊(自己負担 互助会の宿泊券を利用できます)  
申し込み 激励会の申し込みは、3月3日(木)まで葉書(住所、氏名、学校名、電話、派遣経験者の場合は派遣年度、派遣先学校名を記入)で申し込んでください……間にあわない場合には電話でも結構です。  
なお3日以降にキャンセルされる場合は必ずお知らせください。

連絡先……………高橋 承造

昼間 札幌市立平岸高台小学校 電話 011-813-7751  
札幌市豊平区平岸5条18丁目  
夜間 札幌市南区真駒内南町5丁目3の7 電話 011-584-6557

✍ 図書紹介 ✍

子供の異文化体験 箕浦康子著（思索社刊）

〈著者紹介〉みのうら・やすこ 1939年生まれ

岡山大学文学部助教授（社会心理学）

帰国子女教育は、1960年代の後半から、主として適応教育を主眼においたものからスタートといえる。現在においては、幾多の変遷をへて、帰国子女の個性豊かで異文化を理解するなどの内面の特性をみとめ、その特性を一般の児童・生徒の国際理解教育の為に積極的に活用しようとする試みが数多く見られるようになった。

今回の図書紹介において取り上げる本は、帰国子女を理解する上で参考になる本を取り上げる。1984年の初版のこの本は、いわゆる、海外にいる日本人児童や帰国子女教育を扱った実践研究ではなく、異文化の中で生活している子供達の人格形成の問題を「個人と文化」の視点から研究したものである。

いろいろな年齢段階で、親にとまなわれ、日本社会を後にする子供達は、外国で、どのような経験を積み、それをどのような形で心に残って行くのであろうか。また、日本にいる頃に身につけたものは、外国生活のうちに消失してしまうのだろうか。人格形成期を二つの文化にまたがって過ごした場合、こどもの心の中で文化はどのように構造化されていくのだろうか。この本は、子供の異文化体験が、人格形成に対して与えた様々な影響について心理人類学的な立場から適確な答えを私達に与えてくれる。

この本は、著者がカリフォルニア大学ロサンゼルス校において、文化人類学を学んでいた時の博士論文をもとに書かれている。そのため、著者が実際訪問し、調査したデータを土台に科学的な分析がされている。そして、そのデータに基づき一人の人間が、自分の育った文化環境の中で自分自身をどう考えるに至るか、その信念を、いつ頃どのようにして持つに至るか、そのプロセスをアメリカという文化社会に生活している、日本人の子供（著者は生物学的要素として日本人といている）を例にして解説している。

この本に書かれているたくさんケースを読むことによって、私達は、異文化に育つ子供達がどのような生活をし、苦しみ、そして自分自身の人格を形成して行くかがよく理解できると考える。

我々教師は、すぐ「国際人」または「国際的な日本人」という言葉を、いろいろな場面で使用する。だが、実際にその定義は正直なところ、現場においても、混沌としていると考える。この本によって、異文化の中で暮らすことがかえって国際性を失わせているというケースを知ることは、われわれ教師にとって、子供の国際性とは何かを考えるヒントにもなると思う。

（文責 中村 淳）

## 事務局長会議から

石田事務局長のもと、今年度機構改革された事務局の活動も一年を過ぎようとしている。国際理解教育の実践が、社会的な要求とされているとき、我々の会がなすべき事は多いと考える。しかし、残念ながら、その要求に応えるだけの活動を生み出せないのも事実だろう。

我々事務局はこの現実の姿を踏まえ、我々の会が、国際理解教育の牽引車となるべく具体的な行動を取って行きたいと考えている。

- ◎ 北海道国際理解協議会としての研究の方向性を明らかにしていき、本会の目指す国際理解教育の実践化をはかっていく。
- ◎ 広く会員をもとめ、国際理解教育実践研究の場とする。
- ◎ 各支部との連携を強め、各支部との実践・研究交流を通して、北海道が、全国にむけて国際理解教育の情報発信基地としての役割を担う。

事務局では、現在、来年度へむけて組織の改善等具体的な行動を話し合っている最中である。会員の皆さんの忌憚のない意見を頂き会の方向性を見いだしていきたいと考えている。是非、事務局まで御一報を。

## 編集部からの一言

第26号で、会員の皆さんに各地の実践をお送りくださいと、お願いしたところ全道、そして世界各地で活躍中の派遣教員の皆さんから数多くの情報が寄せられました。本当にありがとうございました。これからの国際理解教育において必要なことは、教室の子供達との実践を土台にした研鑽だと考えます。そのためにも、実践交流の場として紙面の充実を図りたいと考えています。実践についての質問、意見がありましたら是非編集部までお願いします。

また、今年4月に派遣教員の先生の名簿をお知らせします。全道16名の先生方が、香港をはじめとして全世界に旅立たれることになりました。任地での活躍をお祈りしたしております。

(第28号編集責任者 斎藤吉文)